



【気持ちも新たに20歳の誓い】

1月7日に行われた、第70回弟子屈町成人式での1コマです。新成人を代表して、上西大地さんと羽田菜々子さんが『誓いのことば』を述べました。

(関連記事27ページ)

Public relations magazine

2018.2 No.762

てしかが

主な内容

- 確定申告に行こう！……………②
- 「健康づくり推進委員」をご存じですか……………⑥
- えこまち通信……………⑧
- 第86号町議会だより第4回定例会……………⑩
- 協力隊通信……………⑪
- 町税などの納期限/夜間納税窓口開設……………⑫

むかしむか史 (328)

てしかが歴史写真館 202



松阪市民が武四郎碑(屈斜路コタン)を訪れた時の様子(2008年10月)

武四郎さんが願った心の交流

— 松浦武四郎メモリアルイヤー —

松浦武四郎は、誕生日が1818年2月6日、没日が1888年2月10日です。何かと2月に縁が深いとのことから、出生地の三重県松阪市(現在)に建つ松浦武四郎記念館では、毎年2月の第4日曜日に「武四郎まつり」が開かれています。

おまつりには毎年違うグループが駆けつけ、アイヌ舞踊を披露しています。屈斜路古丹アイヌ文化保存会の皆さんは、2006年に行われた第11回武四郎まつりに参加しました。一行の中には、1858(安政5)年に武四郎が調査で屈斜路を訪れた際に周辺を案内したアイヌ・イツリツカラの子孫たちが含まれていました。武四郎の子孫との対面を果たし、そのときの様子は「148年ぶりの再会」として新聞やテレビでも報じられました。

2008年2月には、松阪市で「松浦武四郎生誕190年等記念事業オープニングイベント」が開催されました。このときは、屈斜路コタンからイツリツカラの子孫の1人が招かれ、小学生たちとアイヌ文化触れ合い授業も行いました。同年10月には、松阪市民ら40人が道東を中心に武四郎の足跡をたどるツアーを実施。屈斜路コタンにも立ち寄り、アイヌの皆さんと交流する時間を過ごしました。以降、継続的に松阪市民と弟子屈町民との行き来があります。

北海道の名づけ親としてはもちろん、現代において松浦武四郎の功績が語り継がれる大きな理由は、その人柄によるものです。人間味あふれる豊かな心でアイヌの人たちと寝食を共にし、気持ちを通わせた品格の持ち主であるということです。

てしかが郷土研究会(斎藤)

2018.2 てしかが

毎月1回発行 発行/弟子屈町 編集/まちづくり政策課 ☎482-2913 ☎482-2696 〒088-3292 弟子屈町中央2丁目3番1号 URL <http://www.town.teshikaga.hokkaido.jp/>